

仲冬

木々朗

妙高嶺大きく見ゆる冬はじめ
冬めきし風がゆさぶる雑木林
千枚漬生絹のごと重ねけり
匂い立つ千枚漬の一枚ずつ
打つ鐘の余韻残れる除夜の闇

12月 師走 雑詠

細田 安治

丑年も コロナで明け暮れ 丑師走
景気よく 一瀉千里に 寅の歳
慌ただし 師走気がかる 年賀書き
気になるは 一年眺める カレンダー
追い立てる ジングルベルに 師も走る
幼子や 指折り数える 丑幾つ